

1. 指導内容(指導事項)を確認する……「学習指導要領解説」を読みましょう！

◇内容・題材を定める

学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」
題材 第2学年「体験活動を学校生活につなごう」



学級活動の内容は3つありますね。

- (1)学級や学校における生活づくりへの参画
- (2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 です。

学級活動(1)は「議題」に基づいて学級全体の「合意形成」を、
学級活動(2)(3)は「題材」に基づいて一人一人の「意思決定」を
目指しましょう。

2. 単元の目標を設定する……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

◇学級活動（3）で育成を目指す資質・能力を確認する。

- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能が身に付いている。
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、自己の将来について、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができる。
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習のあり方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

3. 単元の評価規準を設定する……評価のための判断のよりどころを決めよう！

◇内容のまとめりごとの評価規準を各学校で定めておく

学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価の観点と規準の例

評価の観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだすことができる。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。



特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。

各学校で定めた「評価の観点」に基づいて、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成するとともに、全教職員で共有することが大切です。



4. 指導と評価の計画を作成する

特別活動自体は他教科のような単元計画というものではなく、年間を見据えた学校行事や学級活動と関連付けて、「事前・本時・事後」の一連の活動と評価計画をつくるのが望ましいですね。



一連の活動と評価（例） 中学校第2学年の「体験活動を学校生活につなごう」

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学校行事・始業式	「一年後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・学校教育目標（キャリア教育目標）、学年目標から自分のこの1年間の目標を設定する。 ○活動 ・「キャリア・ノート」に1年間の目標を記入する。	学校や学年教育目標を踏まえ、個人目標の設定方法を身に付けている。	1年間でなりたい自分を表現している。	自主的に「キャリア・ノート」を活用して自己の学びを見通し、振り返ろうとしている。
学級活動	「4ヶ月後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・前回立てた1年間の目標から1学期の目標を設定する。 ○活動（個人） ・キャリア・ノートに1学期の目標を記入する。 ・1学期の目標を掲示する。	自分の1年間の目標を踏まえ、1学期の個人目標の設定方法を身に付けている。	自分の1学期の目標を表現している。	1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。
学校行事	「自分を知ろう」 ○ねらい ・職業適性検査を通して自分の特性を知る。 ○活動 ・職業適性検査を受ける。 ・職業と適性の関係を知る。	検査の結果を参考にして、自分の適性や興味を理解している。	 大分県版「キャリア・ノート」	自分の適性や興味から職場体験活動への見通しをもとうとしている。
職場体験活動を実施（中略）				
本時	「体験活動を学校生活につなごう」 ○ねらい ・職業体験活動で学んだことをまとめ、今後の学校生活に生かす。 ○活動 ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・ノート」にまとめる。		職場体験活動で学んだことを自己と関わらせながら、「キャリア・ノート」に表現している。	担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。
学級活動	「1学期を振り返ろう」 ○ねらい ・職場体験活動を含め、1学期の活動を振り返る。 ○活動（個人） ・1学期の活動についてまとめ、2学期の目標を考える。		職場体験活動を含めた1学期を振り返り、表現している。	1学期を振り返ることにより、2学期への見通しをもとうとしている。

5. 指導と評価の計画をもとに、本時の評価規準を具体的にする

【単元の評価計画にある本時の評価規準】

- ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・ノート」に表現している。
- ・担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

【具体的に目指す生徒の姿】

具体的にする

- 自分の適性や興味から設定した目標と実際の職場体験活動の活動が合致していたかを判断している。
- 担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

A児「職場でのあいさつ、準備片付けの大切さは、学校生活と同じだった。今後意識して生活したい。」

指導要録に「○」を付ける

「十分満足できる活動の状況」と評価

特別活動では、学級担任以外の教師も指導を行いますから、多面的・総合的に評価をするとともに、本時だけでなく事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、一定期間に実施した学級活動や学校行事を評価規準に基づきまとめて評価することも大切ですね。

